

令和5年度第1回岡崎市放課後児童クラブ支援員研修会レポート

- 【日時】 2023年（6）月（7）日（水）9時30分～11時30分
【会場】 岡崎市役所福祉会館6階大ホール
【内容】 「配慮が必要な児童への育成支援について」
【講師】 1日目：木全和巳さん（日本福祉大学）、2日目：佐々木将芳さん（静岡県立大学）
【クラブ】（ 風の子クラブ ）
【名前】（ 鈴木 美幸 ）

本日の研修で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

研修中に見せてもらった「ふつうってなんだろう？」は、以前にも見たことがあるが、何回見ても考えさせられる内容だと思う。

中学校での数学の確率の授業で、お前たちは何かあると、すぐにふつうがいいと言うが、例えば良い・悪い・ふつうに分けた場合、学歴もふつう、運動神経もふつう、顔もふつう、身長もふつう、収入もふつうの人間の確率はいくつになるか考えてみろ！と言われたことを思い出した。

自分にとってのふつうは、周りの人にとってのふつうではなく、当たり前ではないこと。でも、その自分にとってのふつうを理解してくれる人が1人でも多くいることのすばらしさ、大切さ、嬉しさのような感情を、子どもたちと一緒に考え、理解し、共感しあえる関係性を築いていけることが最終目標だと思った。

後半のグループワークは、普段なら地域、経験年数が偏らないようなグループ分けをするのだが、今回は同じ学童保育所でのグループ分けとなる初の試みであり、新鮮であった。

グループワークでは、気になる子どもの実践記録に対する質問、今後の保育の見立ての発表、質問に対する答えや見立てを聞いたが、その中で、兄弟を知る指導員が1人しかいなかったことにびっくりした。育成センターでは4年ほどで他クラブへ異動すると聞いたことがあるので、そのために兄弟を知る指導員が1人しかいなかったのだろうと推測したのと同時に私たちは、他クラブへの異動をすることも今までなく、同じクラブで一貫した保育ができることを大変ありがたいことだと痛感した。最長で6年間、子どもとかかわりが持て、兄弟がいれば保護者とは7年以上のかかわりが持てる。長い付き合いになるからこそ、お互いに話しやすい、頼みやすいなどの関係性が構築される。だからこそ、この現状に感謝し、今まで以上に、積極的に子どもや保護者とのかかわり合いを大切にしていきたいと思った。

研修終わりに木全先生と、気になる子どもや、配慮を必要とする子どもの実践検討は、2時間では足りないねとの話をさせて頂いた。障がいのあるなしにかかわらず、ひとり一人の言葉にならない声を聞きとり、ひとり一人の保育の見立てができる指導員であり、風の子クラブでありたいと思った研修だった。